

SAMPLE | 金額・年齢・家族構成はすべて架空です

契約前の保険 ファイナンシャルプラン表

家計全体の中で、損や見落としを減らすための判断材料を見える形にします。

相談テーマ	保険に入る前の相談	ご家族（架空）	夫 42 歳・妻 40 歳・子ども 2 人（10 歳・7 歳）
実現したいこと	教育費を確保しながら、老後まで家計の余力を残す	現在の金融資産	預貯金 650 万円／投資資産 180 万円

家族とお金の見通し

単位：万円／年（残高のみ万円） ※税金・社会保険料を差し引いた手取り収入で表示

年	年齢 夫・妻	家族の予定	手取り収入	基本生活費	教育・特別支出	相談テーマ費	年間収支	金融資産残高
2026	42・40	現在	720	420	120	54	+126	830
2030	46・44	高校・中学	700	440	190	54	+16	980
2035	51・49	大学・高校	660	460	250	54	-104	780
2040	56・54	教育費終了	620	470	90	54	+6	840
2045	61・59	退職準備	540	450	60	54	-24	790

この表から判断できること

01 すすめられた保険の合計は 4.5 万円／月、年間 54 万円です。	02 必要保障額は、遺族年金・勤務先保障・預貯金を差し引いて考えます。	03 契約後も教育費を貯められるかを、年間収支で確認します。
--------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------

数値は見本です。実際のプラン表は、相談者の資料と希望を確認して作成します。将来の収支や運用成果を保証するものではありません。

テーマ別の判断プラン

すすめられた保険が、必要な保障と家計に合うか

家計の見通しと相談資料の数字を重ね、選択肢ごとの影響を比べます。

確認項目	必要額の目安	すすめられた内容	判断
死亡保障	2,000 万円	3,500 万円	1,500 万円多い可能性
医療の備え	現金 100 万円＋公的保障	日額 1 万円・終身	入院日数と保険料を再確認
働けないとき	月 20 万円・15 年	月 10 万円・10 年	不足を補う候補
毎月の保険料	3 万円以内	4.5 万円	教育費との両立を再検討

次を取る 3 つの行動

STEP 1 公的保障・勤務先保障・預貯金を確認し、必要保障額を計算する。	STEP 2 保障ごとに必要な期間を決め、終身で持つ必要があるか確認する。	STEP 3 契約後の年間収支が黒字になる条件まで調整してから決める。
--	--	--

相談後に手元に残るもの

この 2 ページのファイナンシャルプラン表を原則 2 営業日以内に送ります。家計全体を見ながら、契約する・続ける・見直す・専門家へ確認するのどれを選ぶか、自分で判断できます。

この見本だけでは 決められないこと	将来、保険金が支払われるか、保険会社が契約を受けるかは断定できません。契約前に確かめる条件と質問はプラン表に残します。
----------------------	---

運営：スペシャリスト・ドクターズ株式会社（保険代理店）

60 分の相談とファイナンシャルプラン表は、相談者の費用負担 0 円です。運営費は、提携する金融機関から受け取る手数料でまかなっています。

この PDF は表示例です。氏名・契約番号・会社名・金額はすべて架空です。個別の税務・法務判断は、税理士・弁護士・司法書士等へご確認ください。